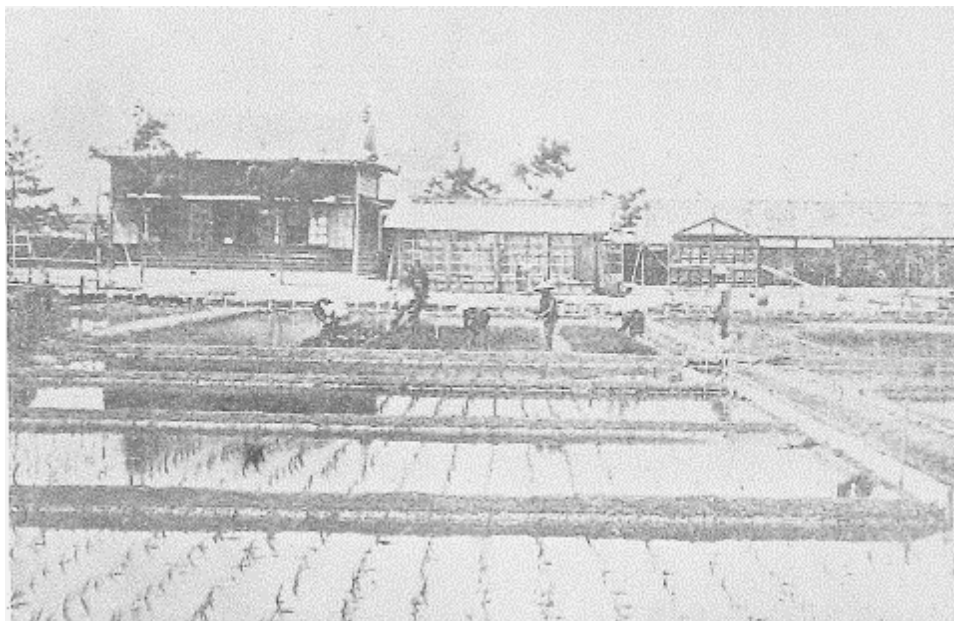


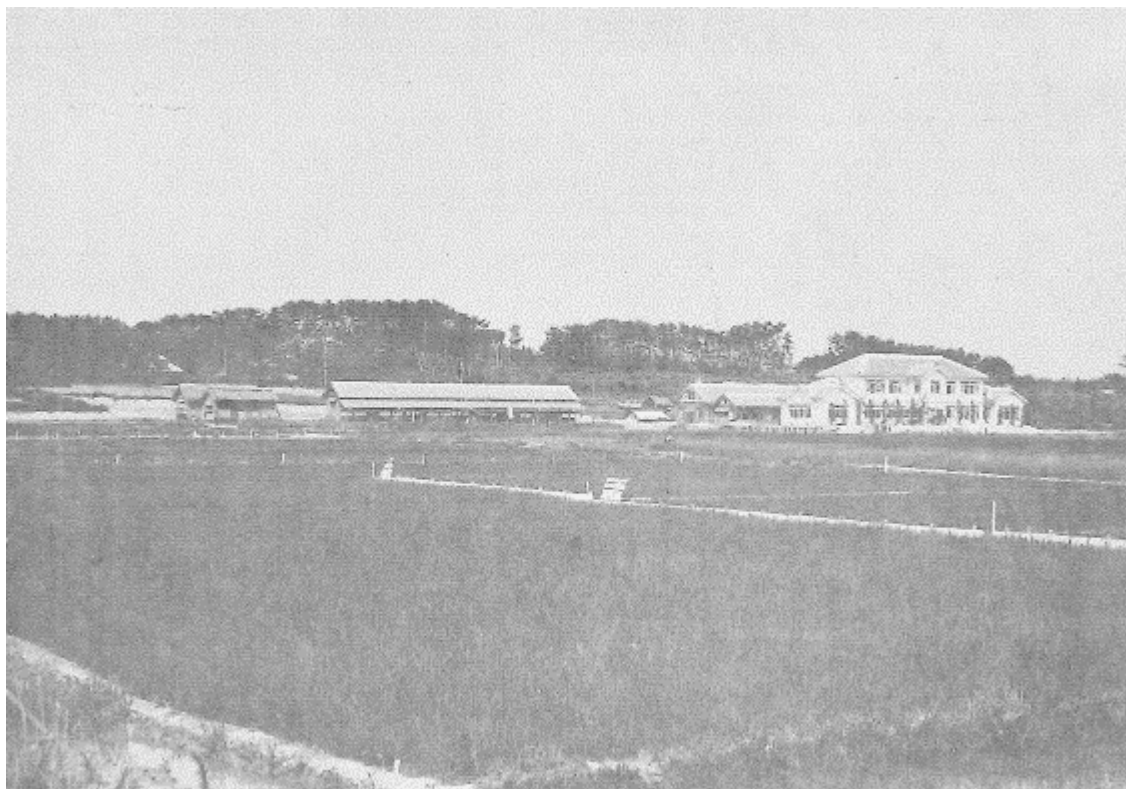
## 第7節 写真でみる軌跡（写真集）

写真集は、最初に昭和44年度三重県農業試験場業務年報・三重県農業試験場小史に掲載された写真集を転載した。次に農業技術センター建設当時、営農課長であった高見氏が撮影した資料写真を掲載した。最後に、平成5年以降の研究所要覧に使用された画像をまとめ、これまでの研究の軌跡を辿ることとした（平成5、19、29年度、令和3年度版の各要覧を引用）。

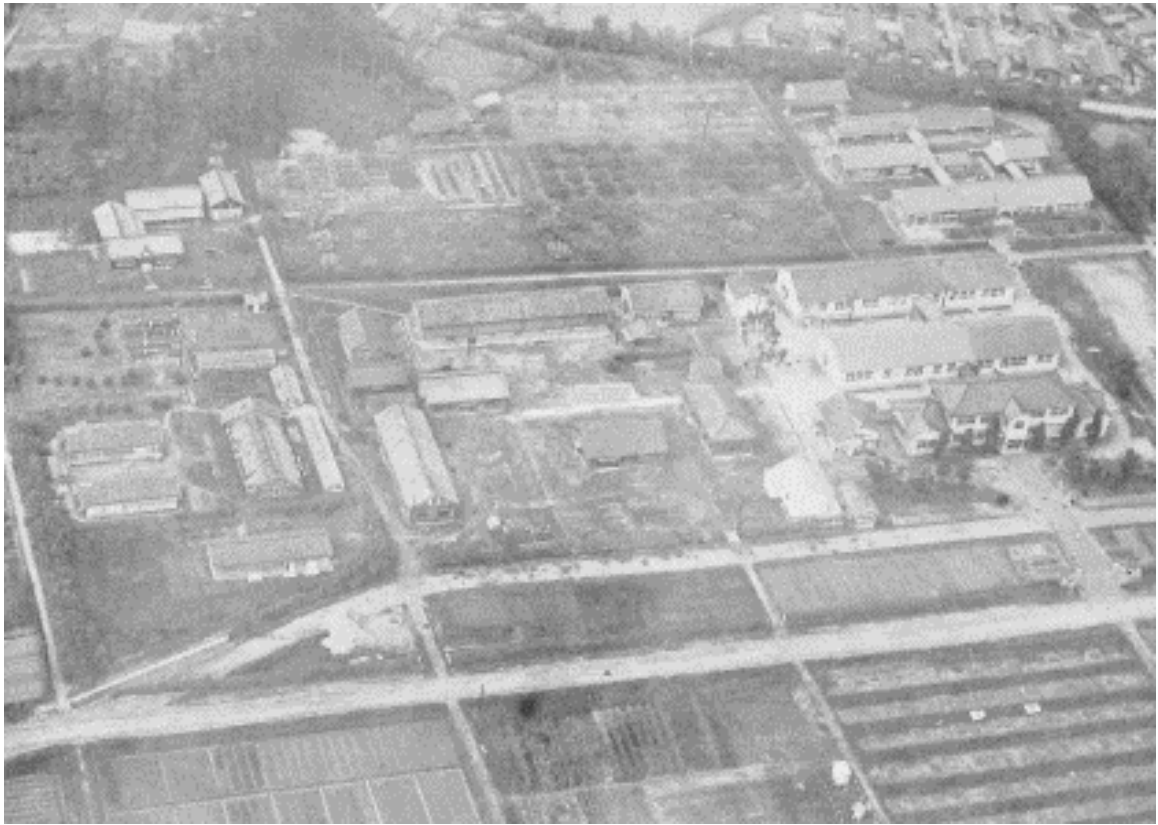
### 1. 昭和44年度三重県農業試験場業務年報 小史・写真集



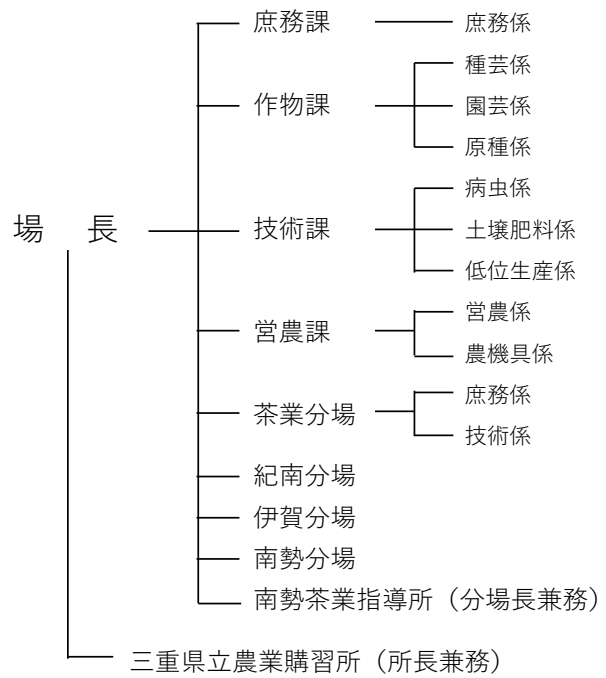
明治34年～大正11年  
 三重県立農事試験場（津市岩田町）の頃  
 上：正門、下：水田圃場（田植え、捕植、除草作業）



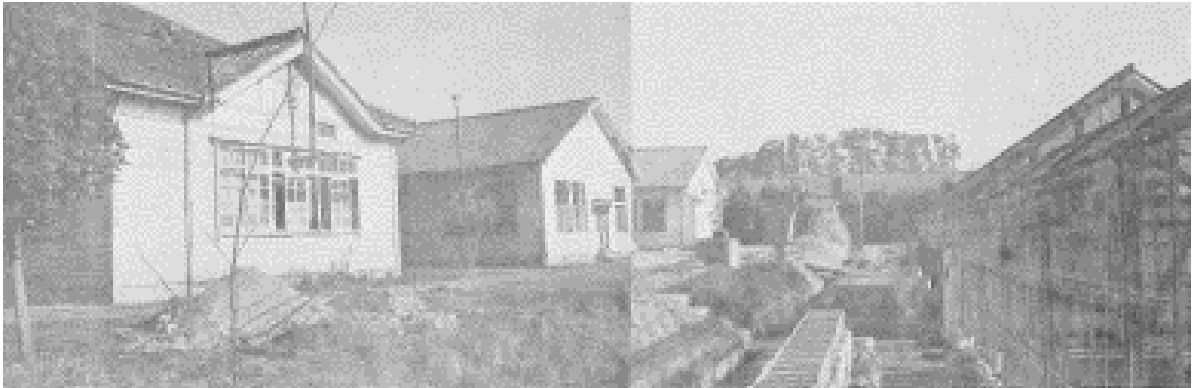
大正 12 年 三重県立農事試験場（河芸郡白子町（現、鈴鹿市江島台 2 丁目鈴鹿市武道館あたり）移転当時の様子  
（現在の近畿日本鉄道名古屋線白子駅から北へ 1.3km）



昭和31年 三重県農業試験場・本場（鈴鹿市）全景



第3-1図（再掲）：昭和31年度組織図  
（三重県農業試験場）



昭和 45 年 三重県農業試験場・本場（鈴鹿市）  
上：本館（正面）全景、下：本館東面を南側から撮影したと思われる。

ほ場全景

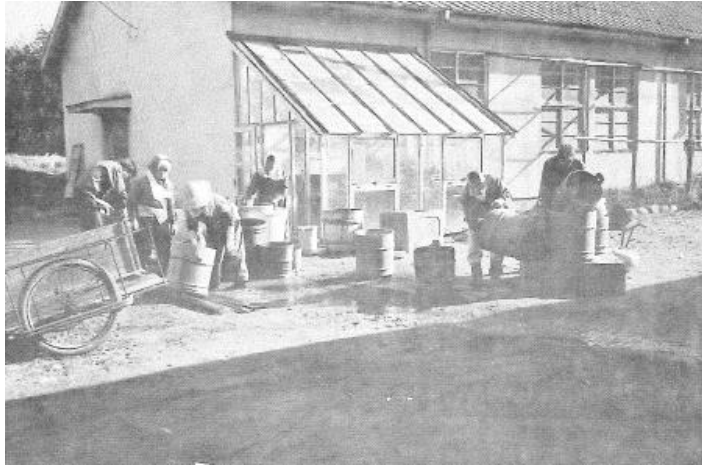


トラクタによる耕うん作業

水稻湛水直播:歩行用直播機の  
試作研究





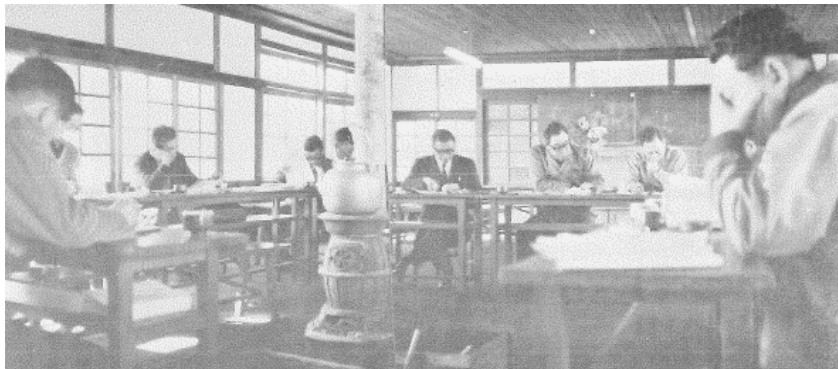


種粃の塩水選

温室作業：当時シンビジウムの開花に関する研究を実施。



農業試験場・会議室、各課・係のようす



上：本館2階（講堂）における会議のようす  
下：庶務課風景





作物課・種芸係

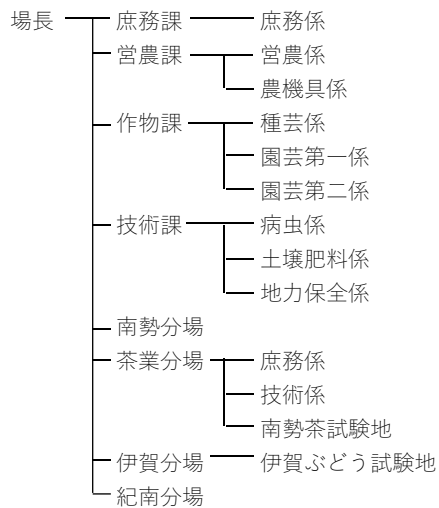
作物課・園芸第2係



技術課・土壤肥料係



営農課



第3-3 図 (再掲・改変)  
三重県農業試験場 昭和44年度組織図

## 2. 高見宮農課長撮影資料（昭和44～45年）

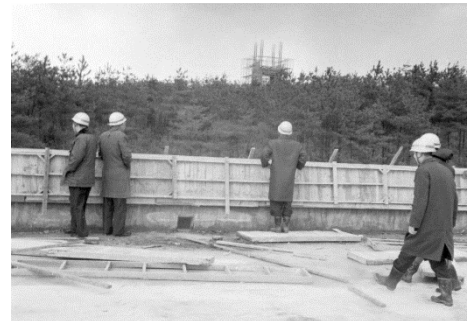
本写真集は、昭和44年11月に農業技術センター本館完成（同年8月）後に高見氏により撮影された写真、ネガフィルム等をデータ化して本史に掲載した。可能な限り、同様の場所現況を並置した。撮影者の高見氏は、資料封筒に手書きで“高見部長”とあったが、昭和44年当時の職員名簿で「高見」氏は、「高見辰吉」氏のみで、氏は、“営農課”課長で齟齬がある。ちなみに昭和45年度の農業技術センター創設時に、“営農課”は“営農部”となったが部長は池氏であった。詳細は不明である。

各写真の説明には、主に当時のネガフィルム袋や印画紙裏の説明を記載し、現況に沿って若干の説明を加えた。



本館建設途上のようす（昭和44年頃）  
本館の完成は、同年8月で、同時期に営農課が移転している。

本館屋上から建設中の給水塔を望む（現在は撤去されている）。



同上、県道（西山古墳から見ると現在の県道413号線か）からの遠景。  
西山古墳の中腹の看板は建設会社名。





上左：未舗装の県道。  
上右：同県道から本館を望む遠景  
下右：前後の写真からみると、水田  
圃場から南方向を望む。



上左：本館から南方向を望む（南東）  
上右：本館から南西方向。  
左：本館から南東方向を望む。上左のさら  
に東に寄る。  
下の2枚：水田から東（本館）を望む



本館完成 (昭和 44 年 8 月)



左・上 (2 枚) : 昭和 44 年 11 月 28 日、本館前道路整地の様子  
花壇用地にもなるとのこと。



左 : 昭和 44 年 11 月 5 日、東畑精一氏来所 (本館完成後、見学中の  
懇談の様子 (他 : 東畑四郎氏、東畑所長、中川電化社長、吉田部長)

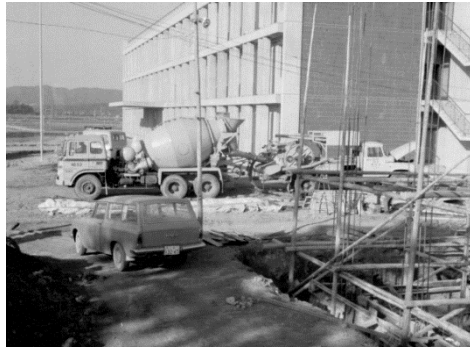


昭和 44 年秋頃、麦播種  
前の除草剤散布作業



歩行用トラクタによる  
麦の播種作業





上・左 (3 枚) : 講堂及び農業大学の建築工事 (昭和 44 年、研修棟)。



桑園 (農業技術センター敷地の南東区域、約 2ha) での桑苗移植作業 (昭和 45 年頃)。現在、露地野菜圃場、植物工場敷地等となっている。

### 3. 農業研究所 (松阪市) の主な施設 (撮影 : 令和 5 年 1 月)



現在の本館 (令和 5 年 1 月)





稲架乾燥室 (平成元年)



水稲育種施設 (平成元年)



世代促進温室 (ガラス室)



世代促進温室 (平成 29 年)



世代促進温室 (暗室)

特産育種実験棟 (平成 4 年)



バイオテック実験棟とジーンバンク棟 (右)



新品種育成用ガラス温室群

植物工場三重実証拠点 (平成 23 年)



上左：植物工場耐候性・高軒高ハウス  
上中：研修室及び保存・調整室  
上右：イチゴ高設栽培  
左：トマト・ロックウール養液栽培

## 門



左上：正門  
向かって左は、西山古墳、正門をに入って、本館  
までモミジバフウの並木が続く（約200m）



左下：東門  
向かって右は旧蚕業  
センター敷地（現在  
は事務所建屋が残る  
のみ）  
向かって左方向に  
は、トラクタ練習場  
がある。

下：南のほうの門から北方向を望む  
正面に本館、向かって左は特産育種施設、  
右は、野菜園芸研究関連のハウス群



## 屋上からの眺望

右（2枚）

左：北方向  
中ほどのプールは貯水  
用。水田圃場等へ給水し  
ている。正面奥は西山古墳。  
右：北西方向  
近鉄名古屋線、伊勢中川駅  
方向



上：西方向  
農産研究課・水田圃場を望む  
（約4ha）  
圃場の向こうに市街地、団地  
が迫っている。  
（松阪市嬉野中川新町）



上：東方向  
手前から奥にかけて、講堂、農  
林水産支援センター、農業大学  
校（左奥に体育館）  
下：南東方向、伊勢湾・松阪市  
街を望む



左：南方向  
向かって右は特産育種実  
験施設、左は野菜園芸課  
ハウス群



## 4. 研究の軌跡（過去の所要覧から）

農業研究所で作成された要覧から写真資料を抽出し、ここに掲載する。①平成5年時の情報が掲載された要覧（農業技術センター）、②平成19年度にまとめられた要覧（科学技術振興センター農業研究部）、③平成29年度研究室制を導入した要覧（農業研究所、ほぼ現状）、の3点から引用した。主に写真資料を中心に研究内容の変遷を追った。

## (1) 農業経営分野

年度	所属名
昭和 31～44 年度	営農課 営農係
昭和 45～56 年度	営農部 経営研究室
昭和 57～60 年度	同 営農研究室
昭和 61～平成 2 年度	開発企画部 経営企画研究室
平成 3～11 年度	経営部 経営担当・情報システム担当 ①
平成 12 年度	企画経営グループ
平成 13～14 年度	地域経営グループ
平成 15～17 年度	経営・植物工学グループ
平成 18～24 年度	経営・植物工学研究課 ②
平成 25 年度～現在	地域連携研究課 ③



## 農業経営①・②：

- 地域農業の計画樹立及び個別農業経営の改善等を図る農業経営に関する調査研究
- 研究成果等の技術情報を効率的に処理するための情報システムの開発



## 農業経営③：

- 農業経営に関する調査研究
- 写真：GISを用いたデータ分析

(2) 農業機械分野

年度	所属名
昭和 31～44 年度	営農課 農機具係
昭和 45～60 年度	営農部 農業機械研究室
昭和 61～平成 2 年度	開発企画部 農業機械研究室
平成 3～11 年度	経営部 農業工学担当 ①
平成 12 年度	作物グループ
平成 13～14 年度	地域経営グループ
平成 15～17 年度	経営・植物工学グループ
平成 18～24 年度	経営・植物工学研究課 ②
平成 25 年度～現在	農産研究課 ③



農業機械①

農業機械①：

- 農作業の効率化のために農業機械及び農作業技術に関する研究
  - 農村及び生産基盤条件整備に関する研究
- 写真：大豆の不耕起播種機



農業機械②

農業機械②：

- 農作業の効率化のための農業機械及び農作業技術に関する研究
- 写真：水稲・麦の不耕起播種機



農業機械③



農業機械③：

- 水稲、麦類、大豆の省力・低コスト、高品質栽培技術に関する研究（農産研究）
- 農作業の効率化のための農業機械及び農作業技術に関する研究

効率的な播種方法の開発

排水性の改善技術の開発



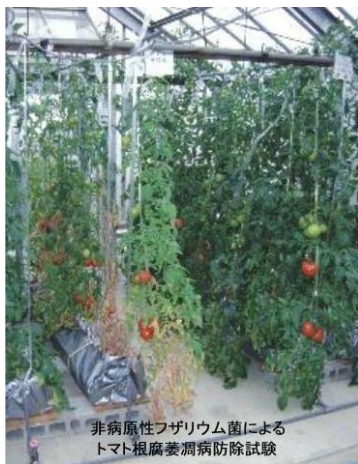
(3) 病虫害分野

年度	所属名
昭和 31～44 年度	技術課 病虫害係
昭和 45～平成 2 年度	環境部 病害研究室・虫害研究室
平成 3～11 年度	生産環境部 病虫害担当 ①
平成 12 年度	自然循環・病虫害制御グループ
平成 13～17 年度	循環機能開発グループ
平成 18～24 年度	循環機能開発研究課 ②
平成 25 年度～現在	農産物安全安心研究課 ③

病虫害①

病虫害①：

- 病虫害の発生生態の解明と防除技術の開発
- 写真右：紫外線・セラミックス利用による養液殺菌装置



病虫害②：

- 写真左：非病原性フザリウム菌によるトマト根腐萎凋病防除試験
- 写真下 (2枚)：ネコブセンチュウの寄生 (トマト)

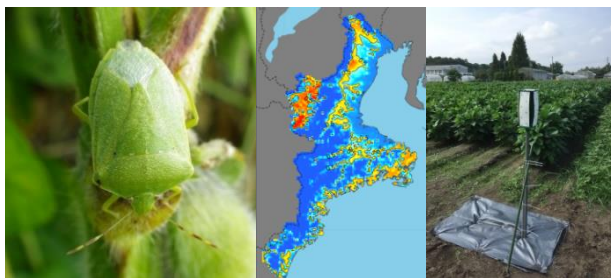


病虫害②

病虫害③：農産物安全安心研究課

- 病虫害の発生生態の解明と防除技術の開発
- 環境保全型農業の実践に活用できる技術開発と実証的研究
- 革新的技術を用いた病虫害診断技術の開発

病虫害③



重要害虫の生態解明とモニタリング技術・防除技術の開発



天敵昆虫・生物を利用した環境保全型の防除技術開発



畑の健康診断に基づく土壌病害管理 (ヘソディム)  
 左：トマト青枯病と土壤中の青枯病菌密度調査  
 右：アブラナ科野菜根こぶ病とセルトレイ検定による発病ポテン



LAMP 法を使った新たな病害診断技術  
 灰色かび病菌に対する殺菌剤感受性検定

(4) 土壌・環境分野

年度	所属名
昭和 31～35 年度	技術課 土壌肥料係・低位生産係
昭和 36～44 年度	技術課 土壌肥料係・地力保全係
昭和 45～59 年度	環境部 土壌肥料研究室・地力保全研究室
昭和 48～平成 2 年度	同 環境調査研究室
昭和 60～平成 2 年度	同 土壌保全研究室
平成 3～11 年度	生産環境部 土壌保全・環境保全担当 ①
平成 12 年度	土壌肥料グループ
平成 13～14 年度	生物機能開発グループ
平成 13～17 年度	循環機能開発グループ
平成 18～24 年度	循環機能開発研究課 ②
平成 25 年度～現在	フード・循環研究課 ③



土壌①

水田から発生するメタンガスの測定



環境①

原料 5mmペレット 8mmペレット

堆肥のペレット化試験

土壌保全①：

- 高品質安定生産のための土壌管理と合理的な施肥技術の開発

環境保全①：

- 大気・水・土壌等農業生産環境の改善、並びに未利用資源の有効利用技術に関する研究



土壌②



土壌保全②：

- 写真左 (2 枚)：土壌調査と土壌標本 (モノリス) の作製



環境保全②：  
写真右 (3 枚)：

キノプロファイルによる土壌微生物群落構造の解析



環境②



鶏糞のペレット堆肥によるヒノナの栽培試験

土壌保全③：フード・循環研究課



土壌・環境③



土壌・作物体に含まれる元素の機器分析



家畜糞等未利用資源の利用技術開発



(5) 食品分野

年度	所属名	
昭和 48～平成 2 年度	園芸部 農産加工研究室	
平成 3～11 年度	生産環境部 品質評価担当	①
平成 12 年度	自然循環・病害虫制御グループ	
平成 13～14 年度	生物機能開発グループ	
平成 13～17 年度	循環機能開発グループ	
平成 18～24 年度	循環機能開発研究課	
平成 25 年度～現在	フード・循環研究課	②



品質評価

近赤外分光法による果実成分の非破壊測定

- ①品質評価：生産環境部
- 農産物の流通・加工技術及び品質評価法の開発

- ②機能性食品開発：フード・循環研究課
- 食習慣病の予防や健康作りのための食品及び農作物生産技術の開発
- 農作物のゲノム育種、遺伝子診断、優良種苗の育成に関する研究



腎臓透析患者用食品開発



次世代健康食品の開発

(6) 作物分野

年度	所属名	
昭和 31～35 年度	作物課 原種係 (S36 種芸係に統合)	
昭和 31～45 年度	作物課 種芸係	
昭和 45～平成 2 年度	作物部 作物研究室・育種研究室	
平成 3～11 年度	栽培部 作物栽培担当 資源開発部 稲育種担当・バイテク担当	①
平成 12～17 年度	作物グループ バイテク・新品種開発グループ	
平成 13～14 年度	生物機能開発グループ	
平成 15～17 年度	経営・植物工学グループ	
平成 18～24 年度	作物研究課、経営・植物工学研究課	②
平成 25 年度～現在	農産研究課	③



作物栽培①

水稲栽培試験

作物栽培①：栽培部

- 水稲・麦・大豆等主要農作物の高品質・低コスト栽培技術に関する研究
- 耕地の有効利用を図るため、合理的な耕地利用法（作付け体系）の開発



稲育種①

水稲世代促進温室



バイテク①

カキ・イセイモ等の幼植物を無菌培養

稲育種・バイテク①：資源開発部

- 交雑育種法とバイオテクノロジー手法の活用による水稲の新品種育成と種苗大量増殖法の開発
- 主要農作物の品種選定と奨励品種の原々種・原種生産

作物栽培・稲育種・バイテク②：

- 交雑育種法による水稲新品種の育成
- 水稲の省力・低コスト、高品質栽培技術に関する研究
- 小麦・大豆新品種の選抜と栽培技術に関する研究



稲育種②

水稲新品種の育成  
上：みえのえみ」、右：みえのゆめ



作物栽培②

小麦栽培試験  
あやひかり・ニシノカオリ・タマイズミ



バイテク②

DNA分析によるイネ・イチゴの品種判別



光る米粒（クラゲの遺伝子）

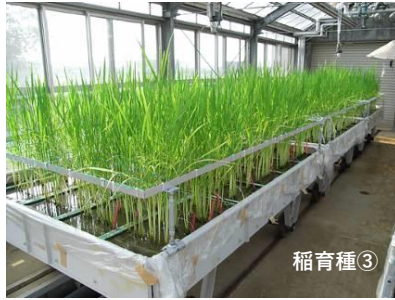


③農産研究：(作物栽培・稲育種・農業機械を含めて)

- 水稲新品種の育成
- 水稲、麦類、大豆の省力・低コスト、高品質栽培技術に関する研究
- 水稲、麦類、大豆の優良品種選定と栽培技術に関する研究
- 農作業の効率化のための農業機械及び農作業技術に関する研究



良食味品種「みえのえみ」  
高温登熟性良品種「三重23号」  
「コシヒカリ」(比較)



世代促進温室を用いた  
水稲高温登熟性検定試験



水稲育成系統の選抜試験



作物栽培③

人工台風発生器を用いた倒伏試験



排水性の改善技術の開発

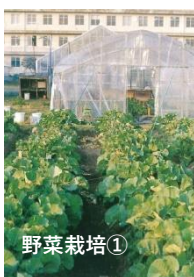


農業機械③

効率的な播種方法の開発

(7) 野菜分野

年度	所属名
昭和 31～35 年度	作物課 野菜分野
昭和 31～45 年度	作物課 園芸科 (1 係は果樹)
昭和 45～平成 2 年度	園芸部 野菜研究室
平成 3～11 年度	栽培部 野菜栽培担当
	資源開発部 バイオテクノロジー担当
平成 12～17 年度	園芸グループ
	バイテク・新品種開発グループ
平成 13～14 年度	生物機能開発グループ
平成 15～17 年度	経営・植物工学グループ
平成 18～24 年度	園芸研究課、経営・植物工学研究課
平成 25 年度～現在	野菜園芸研究課



野菜栽培①

野菜栽培①：栽培部

- イチゴ・トマト・ナバナ等の特産野菜について、新技術・新資材を用いた高品質安定栽培技術確立に関する研究

ナバナの栽培試験

野菜栽培②：園芸研究課

- イチゴ等園芸特産物の新品種育成
- 遺伝資源の保存
- イチゴ、トマト、モロヘイヤ等の特産野菜の高品質安定生産技術に関する研究



イチゴ新品種の育成 (サンチーゴ)

野菜栽培③：生産技術研究室 野菜園芸研究課

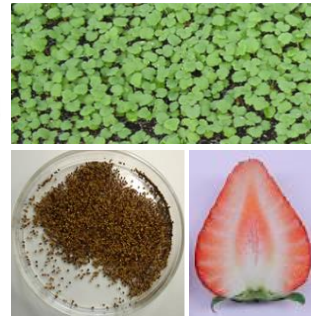
- イチゴ、トマト等の特産野菜の高品質安定生産技術に関する研究
- イチゴ等園芸特産物の新品種開発
- 遺伝資源の保存
- イチゴ、トマト等の太陽光利用型植物工場の実証展示



トマト栽培のためのCO<sub>2</sub>施用技術



炭疽病抵抗性・極早生イチゴ品種「かおり野」



種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」



太陽光利用型植物工場の実証展示



トマト低段栽培の開発



トマト長期栽培の高収量化技術

(8) 果樹分野

年度	所属名
昭和 31～35 年度	作物課 園芸係
昭和 31～45 年度	作物課 園芸第 1 係 (2 係はそ菜・花き類)
昭和 45～平成 2 年度	園芸部 果樹研究室
平成 3～11 年度	栽培部 果樹栽培担当 ① 資源開発部 バイオテクノロジー担当
平成 12～17 年度	園芸グループ バイテク・新品種開発グループ
平成 13～14 年度	生物機能開発グループ
平成 15～17 年度	経営・植物工学グループ
平成 18～24 年度	園芸研究課、経営・植物工学研究課 ②
平成 25 年度～現在	地域連携研究課 ③





果樹栽培①：栽培部

○ ナシ・カキ等の特産果樹について、新技術・新資材を用いた高品質安定栽培技術確立に関する研究

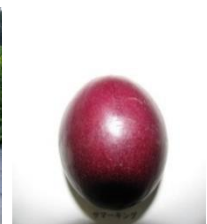
ナシ新品種「筑水」の栽培試験



果樹栽培②：園芸研究課

新品種の選定（福水）および地域特産物（蓮台寺）の高品質技術開発

果樹栽培③：地域連携研究課



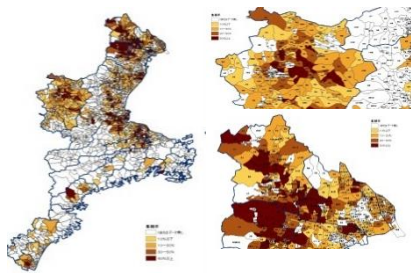
「盛土式根圏制御栽培法」の実証・展示  
ナシ（幸水）の高品質安定生産技術開発

亜熱帯果樹（パッションフルーツ）の栽培技術の開発

(9) 獣害対策研究：平成 19 年度～植物・工学研究科、地域連携研究課

年度	所属名
平成 18～24 年度	園芸研究課、経営・植物工学研究課
平成 25 年度～現在	地域連携研究課 ○

○ 総合的な農作物獣害防止対策技術の開発・各種獣害データの分析



集落単位の農地利用集積状況

センサーカメラによる野生動物の監視

効率的な捕獲技術の開発

## 5. 地域研究室

### (10) 茶業研究

年度	所属名
昭和 31～44 年度	茶業分場・南勢茶業指導所 (S31)
昭和 37～平成 11 年度	南勢茶試験地
昭和 45～平成 2 年度	茶業センター (栽培研究室・製造研究室)
平成 3～11 年度	同 (栽培担当・製造担当) ①
平成 12 年度	同 (研究グループ)
平成 12～13 年度	同 (大台試験地)
平成 13～24 年度	茶業研究室・大台町駐在 (平成 14 年度～) ②
平成 25～28 年度	同 (茶業研究課・大台町駐在)
平成 29 年度～現在	茶業・花植木研究室 (茶業研究課・大台町駐在) ③

#### 茶業①:

- 伊勢茶の品質向上のため、品種選抜をはじめ、病害虫防除及び施肥・土壌管理を含めた栽培方法、製茶技術の改善等新製品の開発を行う。

みーろん茶 (左) の開発  
(左は普通煎茶)



性フェロモンを利用した生物防除試験



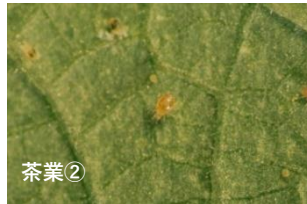
茶業①

#### 茶業②:

- 病害虫防除体系・施肥・土壌管理体系を含めた総合的茶園管理体系に関する研究
- みえ独自の茶経営のためのブランド化品種の選抜と栽培、加工技術体系の確立

ブランド化品種の選抜

ケナガカブリダニ (カンザワハダニの天敵)



茶業②



#### 茶業③

- 伊勢茶輸出戦略に対応した栽培体系に関する研究
- 伊勢茶の産地間競争力を高めるための技術開発
- 伊勢茶の新規需要開拓のための技術開発



輸出相手国の基準に対応した防除体系による茶園管理



かぶせ茶に適応する品種「きらり31」のセル苗技術



ハンマーナイフモアを用いた省力的台切り更新技術



被覆手法の開発



三重の本格紅茶



(11) 花き・植木研究

年度	所属名	
昭和 31～35 年度	作物課 園芸係	
昭和 36～44 年度	作物課 園芸第2係 (蔬菜・花き・いも類)	
昭和 45～平成元年度	園芸部 (花き研究室)	
平成 2 年度	花植木センター (栽培研究室)	
平成 3～11 年度	同 (栽培担当)	①
平成 12 年度	同 (研究グループ)	
平成 13～17 年度	園芸グループ (鈴鹿市駐在)	②
平成 18～24 年度	園芸研究課 (鈴鹿駐在)	
平成 25～28 年度	花植木研究課 (鈴鹿駐在)	
平成 29 年度～現在	茶業・花植木研究室 (花植木研究課 (鈴鹿駐在))	③



三重サツキのセル成型苗と定植機

花植木①：花植木センター

- 需要に対応した花き・花木の新品種の選定と新しい栽培技術の開発
- 指導者、農業者、並びに一般消費者を対象とした研修及び診断・指導



サツキの新品種育成と栽培技術に関する研究



花植木②：園芸研究課

- 花木の新品種育成と栽培技術に関する研究
- 花き・花木の省力低コスト安定生産技術に関する研究

培養液の再利用による環境保全型生産技術に関する研究

花植木③：花植木研究課

- 花き・花木類の新品種育成と安定生産栽培技術に関する研究
- 観賞・薬用・香料作物などの栽培技術に関する研究



サツキ新品種 (伊勢路錦) の育成



シクラメン ハビネスシリーズの特性調査



新規花木 (メラレウカ) の増殖技術の開発



薬用シャクヤクの産地化に向けた技術開発



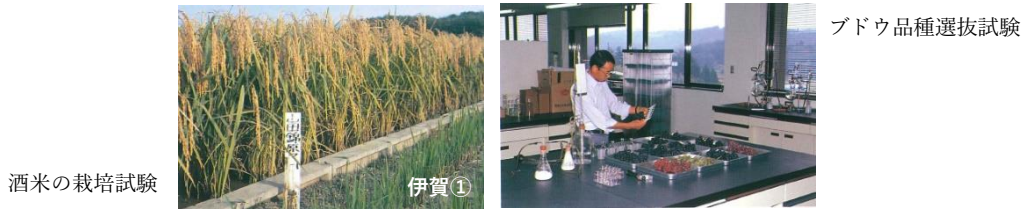
ジャノヒゲの生薬向け生産方法の開発

(12) 伊賀農業研究

年度	所属名	
昭和 31～44 年度	伊賀分場	
昭和 37～44 年度	伊賀ぶどう試験地	
昭和 45～平成 2 年度	伊賀農業センター（栽培研究室、果樹研究室）	
平成 3～11 年度	同（栽培担当、果樹担当）	①
平成 12 年度	同（研究グループ）	
平成 13～17 年度	伊賀農業研究室（研究グループ）	②
平成 18～24 年度	同（グループ制廃止）	
平成 25 年度～現在	同（伊賀農業研究課）	③

伊賀①：伊賀農業センター

- 伊賀米の高品質・安定生産のための栽培技術確立に関する研究
- 水稲原種生産
- 国営青蓮寺開拓地の営農推進作物であるブドウの高品質・安定生産のための品種選抜及び栽培技術に関する研究



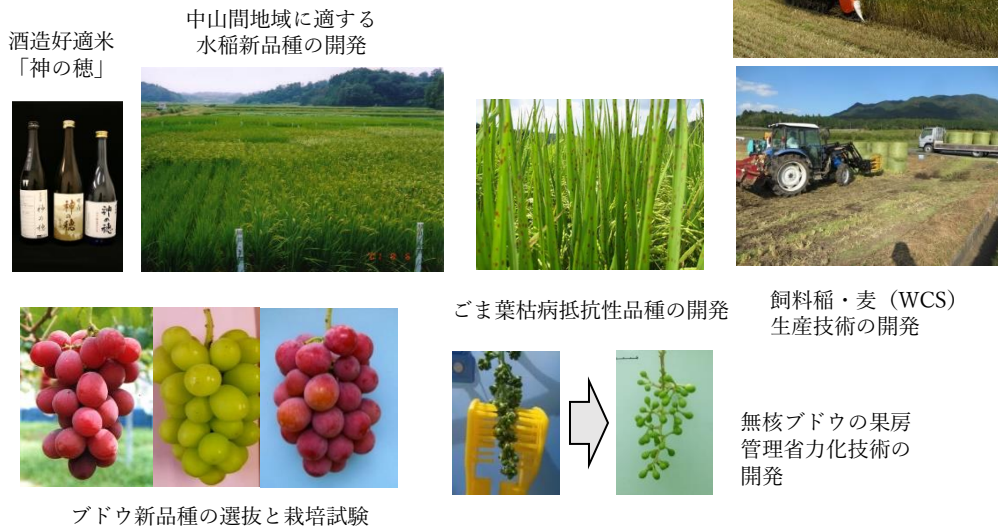
伊賀②：伊賀農業研究室

- 伊賀米の高品質・安定栽培に関する研究
- 水稲の原種生産
- ブドウの品種選抜及び栽培に関する研究



伊賀③：伊賀農業研究室（伊賀農業研究課）

- 中山間地に適する水稲新品種の開発と水稲の原種生産
- 伊賀米の高品質・安定栽培技術に関する研究
- 水田を活用した飼料稲・麦（WCS）生産技術に関する研究
- ブドウの品種選定、無核ブドウの省力栽培技術に関する研究





(13) 紀南果樹研究

年度	所属名	
昭和 31～44 年度	紀南分場	
昭和 45～平成 2 年度	紀南かんきつセンター (かんきつ研究室)	
平成 3～11 年度	同 (かんきつ担当)	①
平成 12 年度	同 (研究グループ)	
平成 13～17 年度	紀南果樹研究室 (研究グループ)	②
平成 18～24 年度	同 (グループ制廃止)	
平成 25 年度～現在	同 (紀南果樹研究課)	③

紀南①：紀南かんきつセンター

- 東紀州地域のかんきつ経営安定化のため、早生温州の  
高品質・安定生産技術の開発
- 国営御浜開拓地を中心とした中晩生かんきつの生産安  
定技術の確立に関する研究



左：かんきつ園の省力管理技術  
右：早生温州の隔年交互着果利  
用技術の開発

紀南②：紀南果樹研究室

- 早生温州の高品質・安定生産技術の開発
- 中晩生柑橘の安定生産技術の開発
- 柑橘の新品種育成



極早生温州のマルチ栽培試験

柑橘の補完作物の選定 (アテモヤ)

紀南③：紀南果樹研究室 (紀南果樹研究課)

- 温州ミカンおよび中晩柑類の高品質・  
省力・安定生産技術の開発
- 柑橘等の新品種育成
- 亜熱帯果樹等の特産果樹の安定生産  
技術の開発



極早生温州のマルチ栽培試験

ミカンの水分ストレス診断



新品種「みえ紀南 4号」  
(みえのスマイル)



極早生温州新品種「みえ紀南 1号」



特産果樹 (アテモヤ、シマサルナシ)



水分チェックボール

## 6. 研究の今（令和3年度版農業研究所要覧）

### 農業研究所のミッション

1. 農業の研究開発を通じて、農業という産業や経済の発展に貢献します。
2. 農業の研究開発を通じて、地域社会に貢献します。
3. 農業の研究開発を通じて、優れた研究員・技術員や事務職員を育成します。



### (1) フード・循環研究課

生産現場で起こる施肥管理等の課題解決に関する研究のほか、土壌の適正管理、未利用資源の利用、合理的な施肥技術の開発に取り組んでいます。また、農産物の機能性成分など付加価値創出に関する研究を行っています。



1976年から続く有機物の連年投入が水稲や土壌に及ぼす影響の調査



土壌や植物体などに含まれる成分の機器分析



効率的な施肥技術を開発するためのポット試験による精密栽培



土壌の状態や根の張り方を観察する「土壌断面調査」



## (2) 農産物安全安心研究課

病害虫の生態の解明や防除技術の開発のほか、省力的かつ効率的な防除のための技術開発や新しい防除資材の開発に取り組んでいます。また、生産者の防除に対する意思決定を支援するため病害虫の発生予測技術の開発に取り組んでいます。



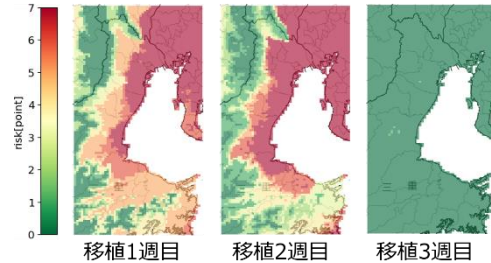
防除が難しいトマト青枯病（左）と最近発生が多いイネカメムシ（右）



薬剤感受性検定による、各種病害虫の農薬抵抗性の状況の把握



常温煙霧装置など省力的な病害虫防除技術の開発



気象データを利用した病害虫の発生予測技術の開発

## (3) 地域連携研究課

ナシ・カキ等特産果樹の高品質安定生産栽培技術に関する研究を行っています。また、担い手対策など農業経営に関する研究、および農作物の総合的な獣害防止対策技術の開発に取り組んでいます。



盛土式根圏制御栽培法によるナシの高品質安定生産技術の開発



農業経営に関するアンケート調査結果の要因分析



大型捕獲檻にシカを誘引するための効果的なエサ設置位置の調査



ICT技術を取り入れた遠隔監視檻で効率的な捕獲技術の開発



#### (4) 農産研究課

本県の気候風土に適した水稲の新品種を開発するとともに、水稲、麦、大豆の優良品種の選定やその原種、原原種の生産、および栽培技術の確立に取り組んでいます。

また、低湿な水田土壌でも麦や大豆等の畑作物が安定的に生産できるよう、排水性改善技術の開発に取り組んでいます。



世代促進温室を利用した水稲の育種期間の短縮化



厳正な管理のもと、水稲、麦、大豆の原種や原原種を生産



低湿な水田土壌における排水性改善技術の開発



新品種の栽培試験やドローンによる生育診断技術の確立

#### (5) 野菜園芸研究課

施設園芸の経営安定と労働生産性向上を目標に、トマトやイチゴ等の多収・高品質・省力化技術や労働安全衛生に配慮した労務管理手法の開発に取り組んでいます。

また、イチゴなどの三重県の園芸特産物を対象に、省力的で収益性の高い新品種の開発に取り組んでいます。



太陽光利用型植物工場三重実証拠点 先進的な栽培の実証・展示



環境制御により栽培期間拡大や収量向上、働く人の作業負荷軽減が可能



極早生の炭疽病抵抗性イチゴ品種「かおり野」 全国に普及



日本で初めて実用化に成功した種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」



## (6) 茶業研究課

茶の栽培、加工技術に関する研究を行っています。スマート技術を用いた栽培診断や省力作業機の実用化技術開発のほか、茶の機能性研究、輸出向け茶の生産技術開発に取り組んでいます。  
また、全国の研究機関と連携し新品種の評価や開発中の農薬の効果確認を行っています。



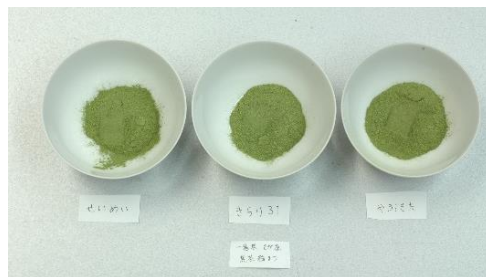
スマート技術を導入した茶園管理手法の研究



新開発の茶園管理機械の実証調査



機能性成分を増加させる被覆法の研究



輸出向け粉末茶の生産技術研究

## (7) 花植木研究課

花き花木類の新品種の育成と農薬の効果や増殖方法等安定栽培技術に関する研究を行っています。  
また、鑑賞・薬用・香料作物などの栽培に関する研究に取り組んでいます。



サツキ新品種（伊勢路錦）の育成



シクラメンの品種特性調査  
(ハピネスシリーズ)



薬用シャクヤクの産地化に向けた技術開発

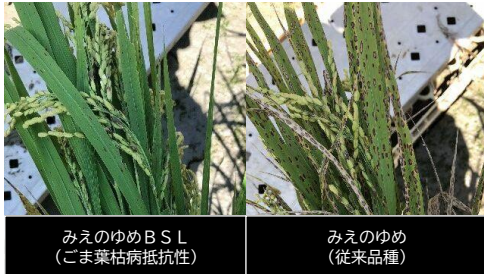


薬用植物「カギカズラ」の効率的栽培技術の確立



(8) 伊賀農業研究課

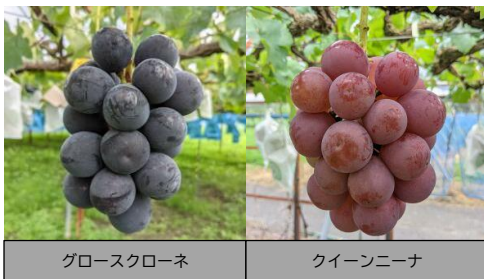
耐病性に優れた水稲新品種の開発や中山間地に適した水稲・麦・大豆の新品種選定および栽培技術の開発を行っています。また、水稲原種生産や水稲採種生産の省力化技術の開発に取り組んでいます。  
伊賀地域に適するブドウ新品種の選定や栽培技術の開発を行うとともに、盛土式根圏制御栽培法の確立に取り組んでいます。



いもち病やごま葉枯病など耐病性に優れた水稲品種の開発



水稲原種生産や水稲採種生産の省力化技術の開発



ブドウ新品種の高品質果房生産技術の開発



盛土式根圏制御栽培法を用いたブドウ栽培技術の開発

(9) 紀南果樹研究課

かんきつ類の新品種開発や高品質な果実生産のための栽培技術開発に取り組んでいます。また、省力的な栽培体系の開発や病虫害防除の技術開発などを行っています。このほか、パッションフルーツなど特産果樹の栽培体系の確立に取り組んでいます。



開発した超極早生温州みかん「みえ紀南1号」



実と硬さを比べて水やりのタイミングを見極める「水分チェックボール」




ドローンを使用した省力的な農薬散布方法の検討



パッションフルーツの新たな栽培方式「鉢吊り下げ式養液土耕栽培」

所在地

**茶業・花植木研究室  
茶業研究課**  
JR関西線「亀山駅」  
から車で10分



**茶業・花植木研究室  
花植木研究課  
(鈴鹿市駐在)**  
三交バス「荒神山口」  
から徒歩5分



**伊賀農業研究室  
伊賀農業研究課**  
近鉄大阪線「伊賀神戸駅」  
から車で15分



**紀南果樹研究室  
紀南果樹研究課**  
JR紀勢線「熊野市駅」  
から車で15分



**農業研究所 (本所)**  
近鉄名古屋線「伊勢中川駅」  
から徒歩15分

